瀬部小だより 11 月号

平成１６年１１月１１日

１　秋の遠足・・・秋晴れや　笑顔輝く　子どもたち

１１月４日(木)は絶好の遠足日よりでした。「雨より晴れのほうがいいね。」と子どもたちの声も弾んでいました。

今年は学校行事のたびに雨が多かったせいか、ひとしおの感があります。戻った子どもたちは疲れたとはいえ、充実した表情を見せていました。ああよかったなあと思いました。

堅い話になりますが、「学校行事は、集団的、体験的な活動を通して学校生活に秩序と変化を与え、集団の所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する意義を持っている」と言われます。室内の授業では味わうことができない体験を積んだと思っております。

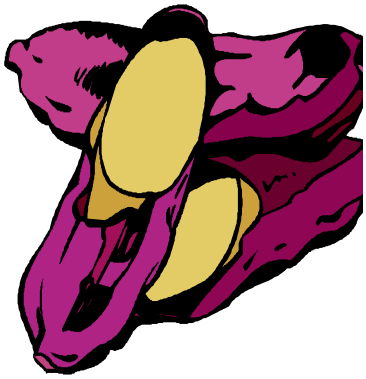
「教育というしごとは、子どもの心をゆさぶり、より高い感動を導くものでなければならない。」（岸田達夫「童子抄」より。岸田達夫先生は、Ａ高校の副校長を努め、昭和 61 年中日教育賞に輝きました。前任校長の吉本先生と同じように、教え子の誕生日に二万三千通の手紙を送ってみえます。）この言葉は、学校行事や教科指導をするに当たって特に留意しなければならない原点だと思っております。心して子どもたちと接していかなければならないと思います。

２　覚える楽しい工夫

「春ツバキ、夏はエノキで、秋ヒサギ、冬ヒイラギで、同じキリなり」これは、江戸時代の寺子屋の師匠が子どもに漢字を覚えさせる工夫としたものだといいます。つまり、木＋春は椿（つばき）　木＋夏は榎（えのき）　木＋秋は楸（ひさぎ）　木＋冬は柊（ひいらぎ）　木＋同は桐（きり）ということになります。これはとてもいいなと思います。「学」という字を戦前は「學」と書きました。これを先生は、子どもたちに覚えさせようとして、書き順にしたがって、メー、メー、ヨー、ヨー、冖（カンムリ）子（コ）と覚えさせました。これは、実によく考えられた方法です。そういえば、年号の覚え方を様々な「ごろ合わせ」をして覚えたと思います。結構楽しかったと思います。子どもたちに工夫させると様々な知恵が出てくると思います。「何がなんでも、何度も書いて覚えよ」式ではなく、遊び感覚で楽しみながら、子どもたちのやる気を大切にした覚える工夫を示唆したいと思います。

３　サツマイモの収穫

　１０月の終わりから、今月の初めにかけて、学校園で栽培したサツマイモの収穫をしました。子どもたちのほとんどは、６月の苗植え、８月の全校出校日の草引きぐらいしか直接的に関わっていません。そして、１０月末からの収穫を迎えました。収穫日当日の芋ほりは、宝物探しのときの感覚のようでした。



しかし、子どもたちの手にどっしりと重い芋は、そんなに簡単にできるわけがありません。屋内運動場の西の学校園は、地域のＯさんから貸してもらっているものです。苗は地域のＨさんに提供していただいたものです。また、サツマイモ畑の畝やマルチをしてくださったのは、農協瀬部支店の方々とＭさんのご協力があってのことです。それ以外にも様々な地域の方々のご援助があったと聞いております。心より感謝申し上げます。苗が根付くまでなかなか雨が降りませんでした。毎朝、バケツで水を汲んで撒いたり、暑い夏の日の草取りをしたりした職員の姿がありました。地域の皆様方と職員の努力が、子どもたちの収穫時の喜びにつながった労作業でした。たかがサツマイモ、されどサツマイモ・・・。各地では菊の展覧会が開かれております。「菊作り　菊見るときは　陰の人」の句を思い起こしております。自然のものを育てるには、それ相当な努力を陰でしている人がいるのだと子どもたちに教えるよい機会だと思っております。

４　学習発表会＜１１月２０日（土）＞に向けて

　全校児童は、総合学習の発表会に向けて、作業中です。子どもたちが中心となってすすめる学習を展開しています。計画し、実践し、発見し、表現する力をこの行事を通してつけたいと思います。瀬部っ子の「生きる力」が高められればと期待しております。毎年同じような内容でも、子どもたちには新鮮な活動です。ご来場をお待ちしております。

４　ご意見・感想などがございましたらお寄せください。